

第9次豊田市総合計画（概要）

総合計画の意義・計画策定の背景

第9次豊田市総合計画の意義・計画構成

豊田市のまちづくりの羅針盤

- 総合計画は、市民と行政がともに取り組む、これからの豊田市のまちづくりの方向性を明らかにする最も基本となる計画
- 第9次豊田市総合計画は、ますます変化が激しくなる予測困難な社会の中での推進となるため、総合計画を「まちづくりの羅針盤」と位置付け、「ミライ構想」の実現に向けた取組目標を掲げ、その施策は常に見直す

第9次豊田市総合計画

公
毎
表
年

計画策定の背景

豊田市の特徴 豊田市を取り巻く環境変化と課題

ミライ構想

長期を展望して設定する**普遍的な**豊田市のまちづくりの方向性

ミライ実現戦略2030

ミライ構想の実現に向けて**5年間で特に注力する**取組の方向性

当初予算における事業の一覧

ミライ実現戦略2030の実現に向けて、当該年度に行う施策・事業

計画策定の背景

豊田市の特徴

「ひと」の視点

多様で充実した担い手が活躍するまち

- 多様なまちづくりの担い手が存在し、市民・地域・企業・行政それぞれが有する知見や資源等を生かした共働によるまちづくりが進められている

多くの市民が住みよさ・愛着を感じているまち

- 本市で生まれ育った市民に加えて、本市へ移り住んだ市民も含めて、人々が暮らしやすいまちを目指して様々な取組を進めた結果、7割を超える市民が「住みよいまち」、約8割の市民が本市に「長く住みたい」と答えている

「ひとを支える基盤（まち）」の視点

世界的な自動車産業の拠点として発展してきたまち

- 自動車産業を中心としたものづくりに関わる企業への就業割合が高く、その企業文化は市民の生活にも浸透している。一方で、社会経済情勢の変化が、人口動向や行財政運営に与える影響は大きく、将来の変化を見通しにくいという潜在的なリスクを有する

豊かな自然、多様な歴史・文化を持つまち

- 市域の約7割を占める豊かな森林や、矢作川を始めとした豊富な水資源などの豊かな自然、歴史・文化など多様な地域資源を有する。文化・スポーツなどの公共施設も充実し、FIA世界ラリー選手権など、世界的なイベントが開催されている
- 名古屋市を中心とした大都市圏の一部として、大学教育や商業施設を始めとした高次の都市サービスを享受しつつ、日常生活に必要な医療・福祉の機能を有し、自立性の高い生活圏を形成している

豊田市を取り巻く環境変化と課題

「ひと」の視点

中長期的な人口減少社会、少子化、人生100年時代の進展

- 人口構造が大きく転換する中で、こどもから高齢者まで全ての人が元気に活躍し続けられる社会や安心して暮らすことのできる地域社会をつくることが重要

価値観・ライフスタイルの多様化の進展

- 家族や地域のつながりの機能の弱まりや、孤独や孤立などの心理的な困難を抱える人の増加、こどもたちの価値観や抱える困難の複雑化・多様化といった状況の中で、「つながり合い」を通じた、「気付き合い」、「認め合い」、「学び合い」が重要

「ひとを支える基盤（まち）」の視点

産業構造の大転換の可能性、カーボンニュートラルの要請

- 産業構造やビジネスモデルが大きく転換する中で、引き続きものづくり企業が集積している特性を生かしたまちづくりが重要

デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速、生成AI等の技術革新の進展

- デジタル化や生成AI等の技術革新が社会経済全般にもたらす様々な可能性を生かしたまちづくりが重要

持続可能な都市経営の重要性の高まり

- 気候変動の影響の拡大、自然災害の激甚化・頻発化、公共施設等の老朽化など、本市を取り巻くリスクを想定し、様々な主体と協力・補完し合いながら、持続可能な都市経営を進めていくことが重要

リニア中央新幹線の開業等

- 名古屋市を中心とする経済圏域の優位性が高まることが期待される中で、名古屋圏や日本経済の飛躍を担う本市の役割を意識した取組が重要

第9次豊田市総合計画（概要）

ミライ構想

長期を展望して設定する **普遍的な** 豊田市のまちづくりの方向性

将来像

つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた

○「つながり」によって、多様な価値や可能性を創出するまち

わたしたちは、「つながり」を通じてお互いを認め、生かし合う中で、多様な価値や可能性をつくり出し、暮らしを楽しむことができるまちを目指します

○「チェンジ（変化）」と「チャレンジ（挑戦）」によって、しなやかに変化し続けるまち

わたしたちは、積極的・前向きに変化することを受容し、先進技術等も取り入れながら、主体的に挑戦への一步を踏み出せる心豊かな社会を目指します

まちづくりの基本的な考え方

将来像の実現に向けた、市民・行政の行動規範

3つの「発想の転換」

- ①「個の充足・完結」から「つながり・関係性の広がり・深まり」重視へ
- ②「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ
- ③「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体がつくり上げるまちづくり」へ

3つの「行動の変容」

- ① 見方を「変える」＜気付く＞
これまでの在り方を当たり前とせず、多様な価値観を認識し、認め合うことを意識
- ② 思考を「変える」＜考える＞
時代に即して、常に考え方を柔軟に変えていくことを意識
- ③ 行動を「変える」＜行動する＞
自分のこととして物事を捉え、できることから行動につなげていくことを意識

将来都市構造

拠点連携型都市

- ☑ 長期の視点を持って戦略的に、自然と暮らしが調和する土地利用を図る
- ☑ 拠点同士の連携を強め、様々な循環・対流を創出し、都市部・山村部それぞれの地域の価値を高め合うことを目指す

＜基本的な考え方＞

- 広大な市域の中で、市民の暮らしの質を将来にわたって維持・向上させていくためには、都市部と山村部の都市基盤を柔軟に活用しながら、社会環境に適応して、多様な価値や可能性を創出するまちづくりが必要
- 地域の特性に応じて、暮らしに必要な機能や居住を集積・維持する地域を「拠点」、道路や公共交通・情報基盤を「ネットワーク」に設定し、拠点間の相互連携を図る

＜拠点連携型都市の実現に向けて＞

拠点への機能・居住の緩やかな集積と拠点間の連携強化

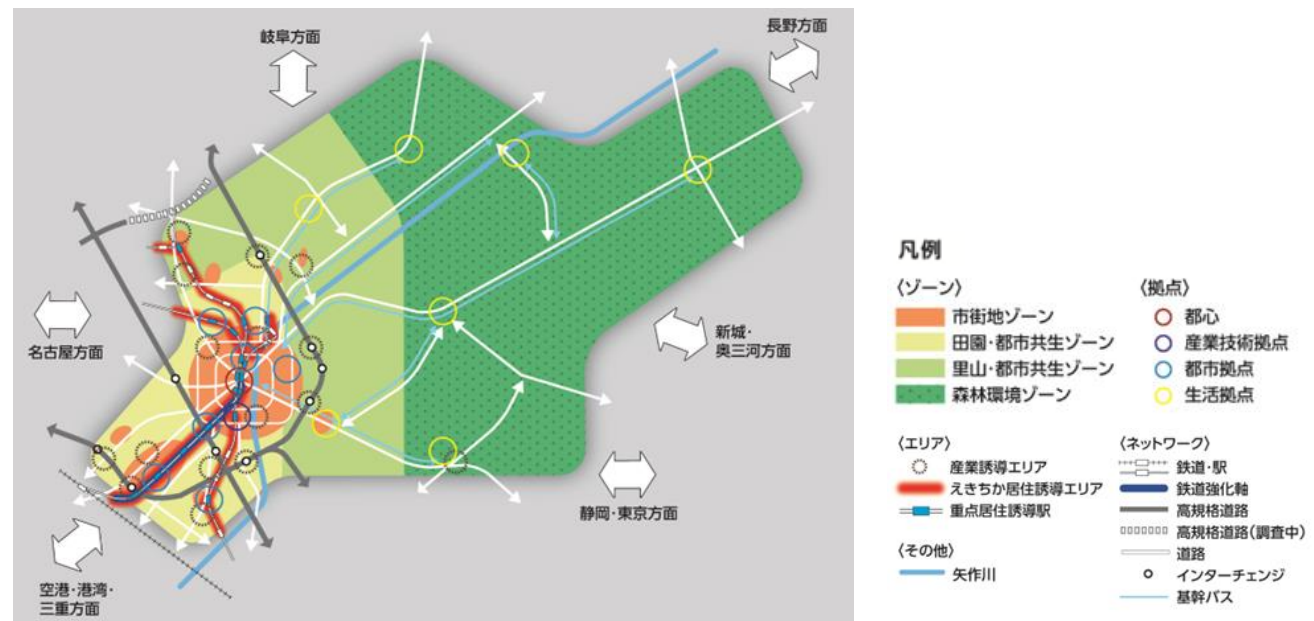
- 都市部では、拠点を中心に暮らしに必要な機能を集めることに加え、利便性の高い地域への新規居住や住み替えを推進
- 山村部では、必要な機能を拠点に維持し、暮らしの質を確保するとともに、コミュニティの維持に向けた移住・定住、交流を促進
- リニア中央新幹線の開業を見据え、名古屋市へのアクセス性の向上を図るとともに、拠点間の連携や交流の促進に必要なネットワークを強化

都市基盤を生かした更なる産業の強化と地域資源の保全・活用

- 将来にわたって都市活力を持続するため、充実した都市基盤を最大限に活用し、更なる産業の集積・強化を推進
- 優良農地や森林の保全を基本とし、地域特性に応じて地域活力の向上に資する農地や森林の活用を推進
- 豊かな自然や歴史・文化・スポーツ等の多様な地域資源を活用した地域の活性化を推進

安全・安心な防災まちづくりの推進

- 農地や森林が持つ多面的機能を生かした適切な土地利用を推進
- 自然災害に適応するため、防災・減災対策の着実な推進



※将来都市構造における「都市」とは豊田市全域を指します
「都市部」とは、本市の中で人口や暮らし機能が集まっている地域を指します

第9次豊田市総合計画（概要）

ミライ実現戦略2030

ミライ構想の実現に向けて **5年間で特に注力する** 取組の方向性

はじめに 人口減少社会においても持続可能なまちを目指して

「人口減少社会の進展」「人口構造の大転換」

<本市における主な背景>

- 人口減少：2050年の総人口約37万人（高齢化率33.4%）
- 少子化の進行：生まれるこどもの数が10年で約33%減少
- 若年層の流出：15～39歳の日本人女性が直近3年で約2,000人減少
- 外国人人口の増加：外国人住民が、2万人を超え過去最高

⇒従来の発想を前提とした仕組みや考え方を継続していくのではなく、新しい発想で物事を考え、チェンジ・チャレンジ（変化を受容し挑戦する）思考で取組を進めていくことが重要

⇒地域性を生かして、まちの総合力を高め、若年層を始め広く人々にとって、住みたい、関わりたいと思える魅力あるまちにしていけることが重要

ミライ実現戦略2030

取組方針1 ともにこどものミライに夢と希望をつくる

わたしたちは、本市の誇るべき多様な地域性や価値、多様で豊かな担い手を生かし、一人ひとりがつながり、楽しみながら、こどもたちが自らのミライに夢と希望を持てる社会をつくります

取組目標	目指す姿	施策
①こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる	(1) こどもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めている	地域資源を生かした「遊び・学び・体験」の機会の充実
		自ら考え判断する力を育む教育の推進
		多様な学びに対応した最適な教育環境づくり
	(2) 人生100年時代に誰もが学び合いを通じていきいきと暮らしている	大人の学び・活躍を支援する機会の充実
		「クルマのまち」の更なる魅力の向上
		まちの歴史・文化・芸術や自然等をミライにつなぐ取組の推進
②誰もがつながり合いの中で安心して自分らしく暮らすことができる	(3) 市民のまちへの愛着・誇りが育まれている	身近な地域の魅力を知り、生かす機会の充実
		テーマやターゲットに応じた戦略的な情報の発信
		結婚・出産・子育て支援の充実
	(1) まち全体がこどもの成長を支えている	保育ニーズへの対応と良好な幼児教育・保育環境づくり
		配慮が必要なこどもへの支援
		地域活動の持続可能性の向上
	(2) 誰もが地域・多世代でともにつながり合いながら暮らしている	多様でゆるやかな「つながり合い」の創出の促進

5年間で特に注力する視点

視点1 「こども起点」でまちづくりを考える

○次世代を担うこどもたちが、多様な場における、こども同士や多世代とのつながりの中で、多様な経験をするとともに、いきいきと暮らす大人の姿をこどもたちに伝えることで、まちへの愛着を育み、こどもたちのミライに夢と希望をつくることを目指す

視点2 誰もが「つながり合う」まちづくりを進める

○まち全体でこどもの成長を支え、こどもから高齢者まで、全ての人がつながり合いの中で安心して自分らしく暮らすことができる社会を目指す

視点3 人を支える「まちの基盤」をつくる

○圏域をリードする産業中枢都市として深化し、拠点連携型の都市構造の中で安全・安心で魅力的なまちづくりを進め、豊かな自然環境を次世代へ受け継ぐことを目指す

取組方針2 ともにミライにつながるまちをつくる

わたしたちは、将来を展望し、ミライを担うこどもたちにとって安全・安心で持続可能なまちの基盤をつくります

取組目標	目指す姿	施策
③産業中枢都市として深化し続ける	(1) 新たな産業が創出されている	ミライを支える産業の創出と育成 積極的な起業・創業の支援 産業用地の創出
	(2) 市内事業者が社会の変化に適応している	市内事業者の持続可能性の向上に向けた取組の支援
	(3) 誰もが希望する働き方を実現している	多様な人材の活躍と柔軟な働き方を実現する人材戦略への支援
④将来を展望した都市環境の形成を進める	(1) 次代につなぐ快適な都市環境の実現に取り組んでいる	都市部の利便性の高い暮らし環境の充実 山村部の持続可能な暮らしの仕組みづくり 社会環境の変化に適応する暮らし機能の最適化 多様な人をひきつける中心市街地の魅力の向上 都市間・拠点間の連携を支える交通ネットワークの強化
	(2) 安全に暮らすことができる災害に強いまちの実現に取り組んでいる	地域力発揮による防災力の強化 防災・減災を支える基盤づくり 暮らしを守る自然環境の適正な保全
⑤脱炭素社会の実現に挑戦する	(1) CO ₂ 排出削減目標を達成している	脱炭素社会の実現に向けた市民の行動の促進 脱炭素社会の実現に向けた事業者の取組の促進 脱炭素社会の実現を先導する公共の取組の推進
	(2) 新たなエネルギーや技術の利活用に取り組んでいる	水素社会の実現に向けた取組の推進

※施策は計画策定時点のものであり、毎年の進捗や社会経済情勢の変化等を踏まえて見直します。

計画の推進に当たって

基本的な理念・原則

第 9 次豊田市総合計画の推進に当たり、次の基本的な理念や原則等を基に取組を進める。

- 豊田市民の誓い
- 豊田市まちづくり基本条例
- 「WE LOVE とよた」条例
- 豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例（略称：山村条例）
- 豊田市地域共生社会の実現に向けた相互理解の促進及び意思疎通の円滑化に関する条例（略称：相互理解と意思疎通に関する条例）

総合計画と連動したSDGsの推進

SDGs達成に向けた基本的な考え方

- ・本市は2018年の「SDGs未来都市」選定以降、日本のSDGsの取組をけん引している。第 9 次豊田市総合計画でも引き続き、施策とSDGsの連動を図り、SDGs達成に積極的に関与していく。

とよたローカルゴールの設定

- ・変化の激しい予測困難な社会においては、まちの持続可能性に加え、市民一人ひとりの心身の豊かさも一層大切にしたいという思いから、独自のローカルゴールを設定する。



L 1 こどもたちが夢と希望を持ち、自らのミライを切り拓く力を育む

持続可能なまちづくりのためには、次世代を担うこどもの育成が必要不可欠です。こどもたちがミライに向かって夢と希望を持ち、心豊かに暮らせるよう、「こども起点」、「こども視点」で施策の在り方を考え、まちづくりを推進します。



L 2 誰もがつながり合い、様々な体験と感動を通じて、地域への愛着と誇りを持っている

地域や多世代によるつながり合いの中で、本市ならではの様々な体験や感動は、わたしたちの暮らしを豊かなものにしてくれます。本市に関わる全ての人が、本市や自分が居住する地域に対して愛着や誇りを感じられる地域社会をつくれます。

計画の進行管理（ローリング）

- ミライ実現戦略2030で掲げた取組方針・取組目標を実現するために、**目指す姿を起点とした計画の進行管理**を行う。
- 指標の推移、社会環境の変化、施策の進捗状況などを踏まえ、**施策立案時の前提や仮説の妥当性を毎年度ローリングにより確認し、施策・事業の見直しや新規立案を行う。**
- ローリング結果については、毎年度当初予算の編成と合わせて公表**する。

行財政運営の基本方針（財政計画）

< 財政運営の基本方針 >

「将来に向けたまちづくりの推進」と「健全財政の維持」の両立を図る

- 事業・事務の最適化を図るとともに、民間の力の積極的な活用等に取り組む。
- ローリングにより、毎年度、施策・事業の見直しを行い、社会経済情勢の変化に的確かつ機動的に対応する。
- 普通建設事業費300億円以上の確保を目指す。ミライ実現戦略2030に資する事業など優先的・重点的に取り組む事業や、既に着手済みで早期に効果発現が期待される事業を中心に計画的に推進する。
- 市債及び基金は、健全財政の維持のため残高に留意しつつ、行政サービスの確保や施策の実現に向けて必要な事業の財源を確保するため、適切に有効活用する。

【財政計画】

- 歳入については、景気や社会経済の動向の見込みを、歳出については、人件費、扶助費等の義務的経費、物価上昇に伴う物件費を始めとする費用の増、将来に向けたまちづくりの推進や、公共施設の維持補修に必要な費用等の見込みを反映。
- これらの見込みは、社会経済の動向や新たな行政需要等により変動するため、**毎年度の歳入歳出予算の見通しと本計画とのかい離を確認し、適時見直しを行う。**

（単位：億円）			
歳入	区分	2024 年度当初予算	ミライ実現戦略 2030 （2025 年度～2029 年度） ※単年度当たり
	市税	1, 2 5 5	1, 1 8 0
	国県支出金	3 9 2	4 4 0
	繰入金、市債	1 5	2 0 0
	その他	2 9 2	2 8 0
歳出	歳入合計	1, 9 5 4	2, 1 0 0
	義務的経費	8 1 0	8 9 0
	普通建設事業費	4 0 3	4 0 0
	維持補修費		
	その他	7 4 1	8 1 0
歳出	歳出合計	1, 9 5 4	2, 1 0 0

○市債活用の考え方

- ・将来に向けたまちづくりの推進に必要な投資や行政サービスの確保のため、残高に留意しつつ、税収等の状況に応じて有効活用し、財源確保を行う。

○基金活用の考え方

- ・資金積立基金の計画的かつ効果的な活用を図る。今後見込まれる財政需要や大規模災害への備え、急激な社会情勢の変化への対応のため、必要な基金残高を確保する。